

築年数が経つ劇場・ホール建築における運営の現状と課題に関する研究 —郡山市民文化センターを対象とした住民調査と改修履歴に基づく分析—

A Study on the Present Situations and the Subjects in Management of
a Theater and a Hall that was Built Tens of Years or More Ago.
- Analyses of Evaluation Based on the Questionnaire for Residents
and the Repair History in Koriyama City Cultural Center -

○山田義文*1, 浦部智義*2, 飯村萌*3

YAMADA Yoshibumi, URABE Tomoyoshi, IIMURA Moe

The public cultural facilities built after the high economic growth of our country are on the point of repairing in many cases. However a study on evaluating a theater and a hall by residents is seldom done except the institution with a historical value. This study aims to make clear the present situations and the subjects in management of public cultural facility that was built tens of years or more ago in a typical large peripheral city (Koriyama City, Fukushima Prefecture) by the questionnaire for residents and an on-the-spot survey including observation and actual measurement and interview with caretakers. The subjects shown by residents are caused not only by age but also the peculiar form and a plan of theater.

キーワード：劇場・ホール、公共文化施設、住民意識、改修履歴、ユニバーサルデザイン
Keywords: A Theater and a Hall, Public Cultural Facilities, Residents Consciousness
Repair History, Universal Design

1. 研究の背景及び目的

我が国の高度経済成長以降に数多く建てられた公立文化施設においては、高度経済成長に伴い盛んに建設が行われたケースを中心として、広く「改修」の問題が取りざたされている。劇場・ホールにおける「改修」は、建物や設備の老朽化、法律整備による既存不適格、舞台技術の進展、表現形態の多様化、舞台利用者ニーズの高度化、顧客の意識の高まり、アメニティ向上への期待、当初は期待できなかった利用実態などに対応するために求められている¹⁾。

しかし、歴史的価値がある施設以外については、その建築が住民にどの様に評価されているのかといった研究は、あまり行われていない。本研究では、典型的な地方中核都市において、開館後の年数が比較的長い公立文化施設を対象とした。対象施設における運営の現状と課題について、市民を対象としたアンケート調査及び現地調査などの結果から明らかにする。

2. 研究対象施設の概要

本研究において対象とした「けんしん郡山文化センタ

ー(郡山市民文化センター)」(以下、郡山市民文化センター)は、福島県の地方中核都市である郡山市の代表的な公共文化施設である^{註1)}。ネーミングライツ制度の導入により、福島県商工信用組合が愛称命名権を獲得し、2018年4月1日(日)からけんしん郡山文化センターの愛称が使用されている。1984年に開館し、開館後36年が経過した(2020年8月現在)。郡山市民文化センターは、鉄骨・鉄筋コンクリート造、地下2階、地上5階建て、大・中2つのホールと622m²の展示室、300席の集会室のほか、会議室5室、練習室2室、リハーサル室1室から構成されている。コンサートや式典等の開催だけではなく、研修や展示会など、様々なニーズに対応できる施設環境を有している(図1)。

参考文献¹⁾によると、ホールは、①コンサートホール(クラシック専用・オープンステージ)、②劇場ホール(オペラ・バレエ・ミュージカルを含む)、③劇場型多目的ホール(プロセニウム舞台と傾斜客席)、④多用途イベントホール(講堂・体育館・スタジオを含む)の4タイプに分類される。郡山市民文化センターは公共ホールに多い劇場型多目的ホールに位置付けられる。

*1 日本大学工学部建築学科 専任講師 博士(工学)
*2 日本大学工学部建築学科 教授 博士(工学)
*3 日本大学大学院工学研究科 博士前期課程

Lecturer, Dept. of Architecture, College of Eng., Nihon Univ., Dr. Eng.
Professor, Dept. of Architecture, College of Eng., Nihon Univ., Dr. Eng.
Grad.Stud., Architecture Course, Grad. School of Eng., Nihon Univ.

3. 本研究の位置付け

劇場・ホール建築を対象としては、歴史的な位置付けを分析した研究や、保全・活用、管理運営、地域的整備、利用圏域などの観点から様々な研究が行われている。里館(2001)他²⁾は、アンケート調査により、既存の劇場・ホールが廃館に至った主な理由として、車社会への未対応(駐車場の不足)、トイレ等の不足等を含むハード面の課題や利用内容の個性化・多様化への未対応などソフト面の課題を明らかにした。白井(2004)他³⁾は、同一市内における11館の地域小規模文化施設における運営状況を比較検証した結果、貸館利用を中心とした運営体制のままでは、市民側のニーズの多様化に対応しきれなくなる可能性を示唆した。小野田(1993)他⁴⁾は、利用状況を含めた包括的な視点から、市町村を単位として、文化ホールの整備特性を明らかにした。坂口(2001)他⁵⁾は、大都市近郊の公共ホールにおいて、鑑賞者の居住地や属性、来館手段、利用頻度等から利用圏域とその形成要因を明らかにした。

本研究では、まず、郡山市民を対象としたアンケート調査と現地調査により、築年数を経た公立文化施設における運営上の課題を把握する。その結果と、利用者へのサービス向上に資する改修履歴の比較分析を行い、劇場・ホール建築における利用者の満足度向上に向けたユニバーサルデザインの適応における現状の課題を示す点が本研究の特徴となっている。

4. 研究の方法と調査概要

本研究を行うにあたり、日本大学工学部と福島県郡山市は2019年8月22日(木)に文化施設の調査研究に関する連携協定を締結した。協定の締結に基づき、郡山市民を対象に「郡山市民文化センター」に関する利用や意識調査を開始した。初回調査として、郡山市民を対象に無作為抽出(標本層化抽出)により得た1,500人に対して郵送アンケート調査を実施した。アンケート回収数は478通(回収率32%)であった。標本の抽出は、年齢階層、地区別構成比ほか、註2に示す条件で行なった。

アンケート調査の内容は大別して、①個人属性、②郡山市民文化センターに関する質問、③仮想的市場評価法(CVM; Contingent Valuation Method)に関する質問、④音楽都市こおりやまに関する質問、⑤文化施設の利用に関する質問、⑥その他の質問を設けた。今回は、上記のうち①、②、⑤、⑥の回答結果を取り上げる。

アンケート調査における自由記述で多く指摘された建

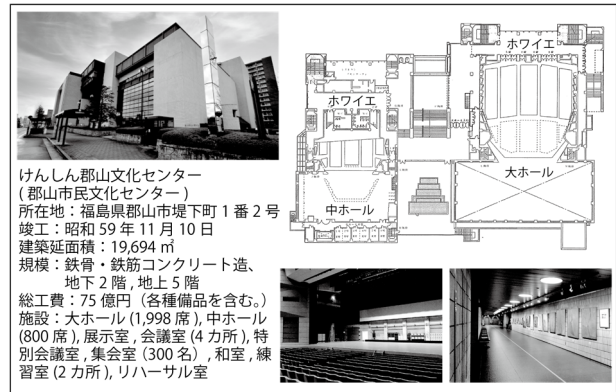


図1. 郡山市民文化センターの概要

表1. 調査概要

【アンケート調査概要】

- (1) 対象: 18歳以上の郡山市民を対象に無作為抽出(標本層化抽出)により得た1,500人
- (2) 調査方法: 2020年1月に、郵送で調査票を送付、437人から回答を得られた(回答率32%)。

【アンケート調査内容】

- (1) 個人属性 (2) 郡山市民文化センターに関する質問
- (3) 仮想的市場評価法(CVM; Contingent Valuation Method)に関する質問
- (4) 音楽都市こおりやまに関する質問
- (5) 文化施設の利用に関する質問 (6) その他

表2. 年齢層別アンケート回答者数及び割合

	男性(人)	女性(人)	その他(人)	未回答(人)
18歳 - 19歳	6 (1.5%)	4 (0.8%)	—	1 (0.2%)
20歳 - 29歳	8 (1.7%)	15 (3.2%)	—	—
30歳 - 39歳	24 (5.3%)	34 (7.2%)	1 (0.2%)	—
40歳 - 49歳	35 (7.6%)	56 (11.8%)	1 (0.2%)	—
50歳 - 59歳	40 (8.4%)	47 (9.9%)	—	—
60歳 - 69歳	49 (10.3%)	47 (9.9%)	—	—
70歳 - 79歳	37 (8.0%)	37 (7.8%)	—	1 (0.2%)
80歳 - 89歳	7 (1.7%)	20 (4.2%)	—	1 (0.2%)
90歳	1 (0.2%)	3 (0.6%)	—	—
未回答	—	—	—	3
小計	207	263	2	3
合計	475			

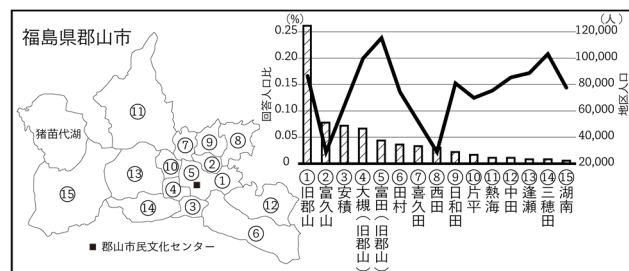


図2. 回答者の居住地域と回答人口比

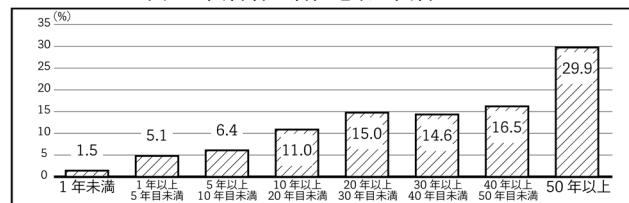


図3. 回答者の在住歴

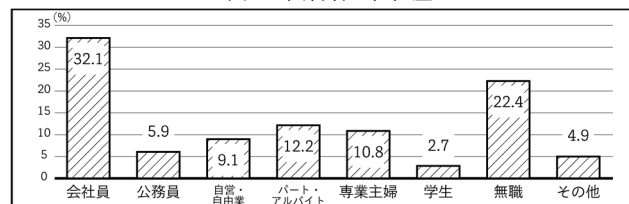


図4. 回答者の職業

物各所の使い勝手に関する意見を分析した結果を踏まえ、改修履歴の分析と現地訪問調査により、築年数を経た公立文化施設におけるユニバーサルデザインの適応に関する現状と課題を考察する。

5. 利用実態及び施設評価に関するアンケート調査結果

居住地域と回答人口比について、回答者の居住地域と2020年郡山市住民基本台帳人口を比較し、回答率を算出した(図2)。在住歴については、郡山市に「10年以上住んでいる」が全体の88%を占め、そのうち「50年以上住んでいる」が30%であった(図3)。

職業については、「会社員」と回答した人が32%、続いて「無職」と回答した人が22%と続いた(図4)。

施設までの交通手段は、「自動車」もしくは「自動車(送迎)」と回答した人が全体の61%を占め、公共交通機関(「バス」「電車」と回答した人は11.6%であった(図5)。

自由記述においても、駐車場^{註3)}に対する要望が非常に多く見られ、施設評価にも関わってくるのが考えられる。

施設までの所要時間は、「15分以上30分未満」と回答した人が60%と一番多かった(図6)。

施設の利用回数は、回答者のうち、約半数の47%が「10回以上利用したことがある」と回答した。9%の方は「過去に利用したことはない」と回答した(図7)。「過去に利用したことはない」と回答した人において、利用しない理由は、「興味があるイベントがない」、続いて「交通手段が不便」であった(図8)。

自由記述においては、自宅付近に公共交通機関が通っていない上、自身が高齢で自動車を運転することができないという回答も見られた。

利用目的としては、「コンサート」および「演奏会・コンクール」が大半を占めた。

利用場所としては、「大ホール」の利用が一番多く、「中ホール」、「展示室」と続いた(図9)。

「質問1 郡山市民に限らず様々な人が利用する施設であるべきである」では、好意的意見が約95%であった。

また、同様の意味を持つ「質問6 市民のみが利用すべきである」では、非好意的意見が約92%となった。

「質問9 自分にとって必要な施設である」では、好意的意見は65%に留まったが、「質問8 将来の世代にとっても必要な施設である」では、好意的意見が約90%を示した(図10)。

6. 当該施設利用と他の文化施設利用の関係分析

アンケート項目のうち、「あなたは、郡山市民文化セン

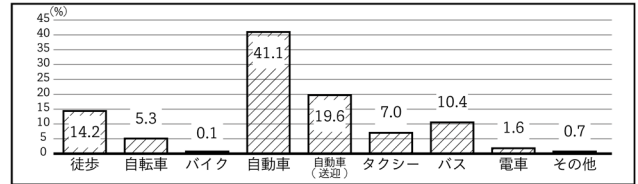


図5. 施設までの交通手段

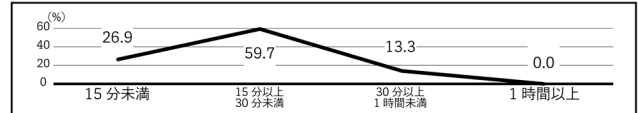


図6. 施設までの所要時間

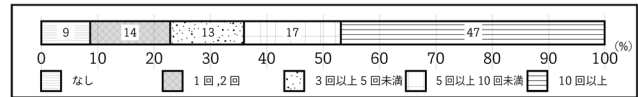


図7. 施設の利用回数

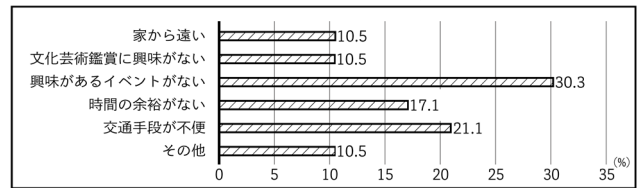


図8. 利用しない理由

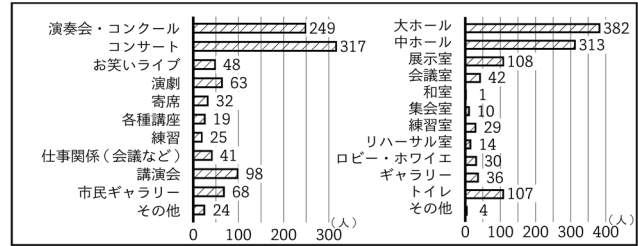


図9. 利用目的(左) 利用場所(右) 上位3つ選択

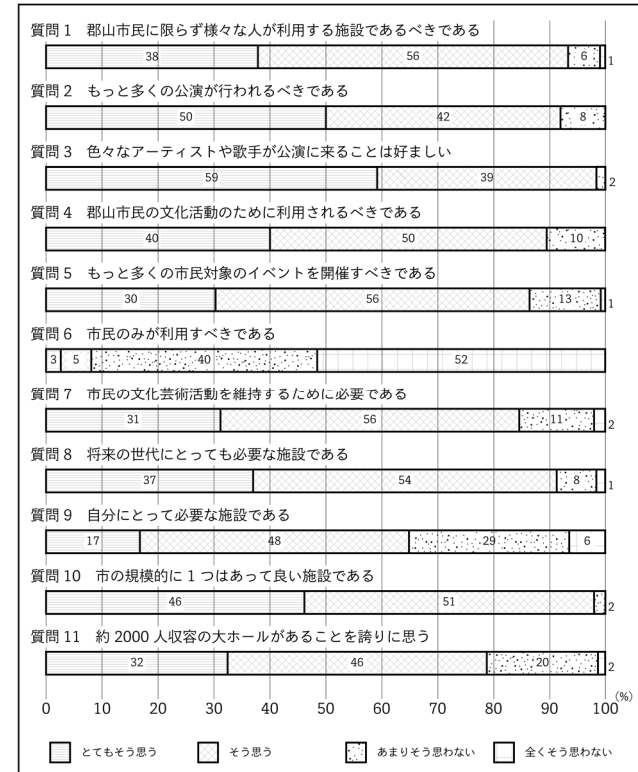


図10. 市民の施設に対する価値評価

ターをこれまでに何回利用したことがありますか」と尋ねた設問に対する回答と、文化施設の利用に関する質問

の回答を対象としてクロス集計を行い、利用状況の関連性について分析を行なった(表3)。文化施設の利用に関する質問では、対象施設を立地及び用途別に「郡山市内」、「福島県内」、「仙台・新潟」、「首都圏(劇場)」、「首都圏(演芸場)」、「首都圏(ホール)」、「アリーナ」の7カテゴリーに分け、複数回答で利用状況を伺った。

文化施設の利用状況については、当該施設の利用回数が0回の人をカテゴリー1、1~2回の人をカテゴリー2、3~4回の人をカテゴリー3、5~9回の人をカテゴリー4、10回以上の人をカテゴリー5と分類し、カテゴリーごと分析する。表3の小計は、各カテゴリーにおけるその他の文化施設の延べ利用状況を示している。

まず、カテゴリー1(41人)の施設利用率は、郡山市内が2.4%から36.6%で、福島県内は0%から17.1%。仙台・新潟は2.4%から7.3%であった。

カテゴリー2(66人)の施設利用率は、郡山市内が7.6%から49.5%で、福島県内は0%から19.7%、仙台・新潟は0%から9.1%であった。

カテゴリー3(62人)の施設利用率は、郡山市内が4.8%から59.7%で、福島県内は3.2%から21.0%、仙台・新潟は1.6%から24.2%であった。

カテゴリー4(81人)の施設利用率は、郡山市内が9.9%から61.7%で、福島県内は0.0%から28.4%、仙台・新潟は2.5%から14.8%、であった。

カテゴリー5(219人)の施設利用率は、郡山市内が23.3%から59.8%で、福島県内は1.8%から49.8%、仙台・新潟は2.7%から18.7%であった。

表3の合計欄を見ると、当該施設の利用回数が多い程、他の文化施設の延べ利用率が高くなる傾向が分かる。当該施設の利用回数と郡山市内及び福島県内の他の文化施設の延べ利用率においては相関関係が見られる。

カテゴリー1では、帝国劇場や国立劇場、新国立劇場、日生劇場、国立演芸場など、福島県外の文化施設の利用割合が、カテゴリー2、3及び4よりも高い状況が見られた。また、歌舞伎座、国立演芸場、浅草演芸ホールといった日本の伝統芸術を扱う文化施設においては、当該施設の利用回数との相関性はなく、利用率にばらつきが見られた。カテゴリー5では、他の文化施設の延べ利用率が他のカテゴリーよりも総じて高いが、アリーナの一部ではカテゴリー3の延べ利用率と大差が見られなかった。

7. アンケート調査における自由記述の回答結果

アンケート調査における自由記述の回答で、多く挙げ

表3. 利用回数別にクロス集計したその他の文化施設の利用率

施設名称	所在地	竣工(年)	延床面積(m ²)	タイプ	メイン収容(人)	けんしん郡山文化センターの利用回数別				
						0回	1,2回	3~4回	5~9回	10回~
けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター)	福島県郡山市	1984	19,694	多目的ホール	1,998	41	66	62	81	219
福島県産業交流館(ビッグパレットふくしま)	福島県郡山市	1998	23,258	多目的ホール	5,500	36.6%	49.5%	59.7%	61.7%	59.8%
郡山ユラックス劇場	福島県郡山市	1989	10,855	多目的ホール	3,000	17.1%	33.3%	32.3%	30.9%	34.7%
中央公民館	福島県郡山市	2015	4,971	多目的ホール	500	7.3%	18.2%	17.7%	18.5%	35.2%
音楽文化交流館(ミュージカルがくと館)	福島県郡山市	2012	1,893	コンサートホール	200	2.4%	7.6%	4.8%	9.9%	23.3%
郡山市立美術館	福島県郡山市	1992	6,848			17.1%	16.7%	25.8%	29.6%	41.1%
郡山市ふれあい科学館(スペースパーク)	福島県郡山市	2001	51,900			14.6%	13.6%	27.4%	29.6%	33.3%
郡山市内					小計	95.1%	138.9%	167.7%	180.2%	227.4%
いわき芸術文化交流館アリオス	福島県いわき市	2008	27,547	コンサートホール	1,705	4.9%	10.6%	9.7%	14.8%	21.9%
福島県文化センター	福島県福島市	1970	9,826	コンサートホール	1,752	17.1%	19.7%	21.0%	28.4%	47.9%
須賀川市文化センター	福島県須賀川市	1981	6,294	コンサートホール	1,196	9.8%	16.7%	14.5%	27.2%	49.8%
二本松市民会館	福島県二本松市	1969	3,054	コンサートホール	1,203	0.0%	6.1%	4.8%	3.7%	10.0%
喜多方プラザ文化センター	福島県喜多方市	1983	5,986	コンサートホール	999	2.4%	6.1%	3.2%	4.9%	10.5%
會津風雅堂	福島県会津若松市	1994	7,307	コンサートホール	1,758	12.2%	7.6%	14.5%	19.8%	25.1%
白河文化交流館コミネス	福島県白河市	2016	9,783	コンサートホール	1,104	2.4%	1.5%	4.8%	0.0%	12.3%
福島市音楽堂	福島県福島市	1984	6,023	コンサートホール	1,002	7.3%	3.0%	6.5%	17.3%	27.9%
南相馬市民文化会館	福島県南相馬市	2004	7,537	コンサートホール	1,109	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	1.8%
福島県内					小計	53.7%	65.2%	77.4%	112.4%	197.2%
宮城県民会館	宮城県仙台市	1964	12,470	コンサートホール	1,590	2.4%	4.5%	11.3%	6.2%	11.0%
仙台サンプラザホール	宮城県仙台市	1991	7,909	多目的ホール	2,054	4.9%	9.1%	24.2%	14.8%	18.7%
新潟市民芸術文化会館	新潟県新潟市	1998	25,100	コンサートホール	1,884	0.0%	0.0%	1.6%	2.5%	2.7%
朱鷺メッセ	新潟県新潟市	2002	31,000	多目的ホール	10,000	7.3%	6.1%	4.8%	13.6%	10.0%
仙台・新潟					小計	14.6%	19.7%	41.9%	37.1%	42.4%
帝国劇場	東京都千代田区	1911	37,031	コンサートホール	1,826	9.8%	6.1%	8.1%	3.7%	10.5%
東京芸術劇場	東京都豊島区	1990	49,739	コンサートホール	1,999	2.4%	3.0%	3.2%	2.5%	5.0%
国立劇場	東京都千代田区	1966	35,563	演芸ホール	1,610	4.9%	3.0%	1.6%	2.5%	5.5%
新国立劇場	東京都渋谷区	1997	68,879	コンサートホール	1,814	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%
東京宝塚劇場	東京都千代田区	1934	15,817	劇場ホール	2,778	0.0%	1.5%	3.2%	3.7%	9.6%
日生劇場	東京都千代田区	1963	42,879	劇場ホール	1,334	4.9%	0.0%	1.6%	2.5%	3.7%
首都圏(劇場)					小計	24.4%	13.6%	17.7%	14.9%	41.1%
歌舞伎座	東京都中央区	2013	93,530	歌舞伎	1,808	4.9%	10.6%	3.2%	6.2%	15.1%
国立演芸場	東京都千代田区	1979	2,516	演芸ホール	300	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%
浅草演芸ホール	東京都台東区	1964	32,000	演芸ホール	340	4.9%	10.6%	3.2%	2.5%	8.2%
首都圏(演芸場)					小計	12.2%	21.2%	6.4%	8.7%	26.5%
オーチャードホール	東京都渋谷区	1989	1,569	劇場ホール	2,150	2.4%	6.1%	0.0%	2.5%	5.0%
ザントリーホール	東京都港区	1986	12,516	コンサートホール	2,006	2.4%	3.0%	1.6%	3.7%	9.1%
NHKホール	東京都渋谷区	1973	21,281	コンサートホール	3,601	9.8%	0.0%	11.3%	4.9%	17.4%
首都圏(ホール)					小計	14.6%	9.1%	12.9%	11.1%	31.5%
さいたまスーパーアリーナ	埼玉県さいたま市	2003	132,397	多目的ホール	36,500	7.3%	15.2%	12.9%	19.8%	16.9%
宮城セキスイハイムスーパーアリーナ	宮城県宮城郡	1997	4,583	多目的ホール	7,063	14.6%	9.1%	17.7%	23.5%	21.5%
横浜アリーナ	神奈川県横浜市	1989	45,800	多目的ホール	17,000	9.8%	12.1%	17.7%	17.3%	15.1%
日本武道館	東京都千代田区	1964	18,512	多目的ホール	14,471	14.6%	13.6%	22.6%	19.8%	18.3%
アリーナ					小計	46.3%	50.0%	70.9%	80.4%	71.8%
合計						260.9%	317.7%	394.9%	444.8%	637.9%

られた意見を表4に場所とカテゴリー別にまとめた。最も多かった意見は、駐車場の有無に関する不満の意見で、その次にトイレに関する意見が多く挙げられた。駐車場に関する意見を回答した人の中には、アクセスに関する意見も回答した人が見られた。

自由回答欄に駐車場に関する意見を挙げたのは106人であった。この106人の居住地域の割合は、当該施設

から同心円で計測した距離で最も近い①旧郡山(39%)、②富久山(2%)、③安積(8%)、④大槻(12%)、⑤富田(15%)が合わせて76%と最も多く、次いで当該施設から近い順に⑦喜久田(2%)、⑨日和田(3%)、⑩片平(4%)が合わせて9%、⑧西田(1%)、⑬逢瀬(3%)、⑭三穂田(2%)が合わせて6%、⑥田村(2%)、⑫中田(3%)、⑪熱海(2%)、⑮湖南(2%)が合わせて9%であった(地名の前に示す番号は、図2と対応している)。この106人に対して、自宅から当該施設までの移動時間を伺ったところ、「15分以上30分未満」が61人(57.5%)、「15分未満」が23人(21.7%)、「30分以上1時間未満」が17人(16.0%)、「1時間以上」が0人(%)、無記入が5人(4.7%)という結果であった。

8. 改修履歴とヒアリング調査による改修効果の分析

郡山市民文化センターでは、サービス向上対策として毎年改修を行っている。2014年から2020年の改修履歴資料を分析し、施設管理者に対するヒアリング調査結果に基づく改修効果と改修費用の金額を表5にまとめた。

改修は、案内板、トイレ、手すりの各項目で複数回実施されている。手すり及び案内板の項目では、トイレやホールなど、館内全体にわたり改修が行われている。

改修費用を最も要したのはトイレであった。和式トイレの洋式化により、高齢者等にとって、利便性が向上した。さらに、多機能トイレにおける開閉ボタン式の自動ドアや音声案内、おむつ交換台なども設置され、より多様な利用者のニーズにも応えられるように改善された。

9. 現地調査によるユニバーサルデザインの適応状況

改修履歴の分析を受け、2020年11月に郡山市民文化センターの各場所において観察、実測、管理者へのヒアリングから構成される現地調査を実施した。その結果を表6にまとめた。

正面玄関の階段は手すりが2段で(写真1)、子供から高齢者まで様々な人に対応している。しかし、ノンステップがないため、暗い時に上から見ると、階段の段差が分かりにくく、下りる際に踏み外す危険がある(写真2)。

利用者は、チケットの確認を受けるため、階段やエレベーターで一旦2階に向かってから大ホールへ入る。1階には、車いす利用者用の出入口がある(写真3)。利用時にはインターホンで係員を呼び出す必要があり、他の利用者とは分け隔てられた別ルートで大ホールへ入ることになる。大ホール内には、車いす利用者のための観覧場所が設けられており、利用者は車いすを降りることな

表4. アンケート調査における自由記述の回答結果分析

場所	カテゴリー	主な意見
トイレ	種類	和式のトイレでは用を足すことができないので大変困りました。
	数	1階にトイレが少ないです。 トイレの数が多ければ、もっと使いやすくなると思います。
	利便性	トイレが使いにくい。
	広さ	トイレが狭い。
駐車場	有無	駐車場がなくて不便です。
	付近の駐車場	無料の駐車場が近くにあればいいです。 図書館前の駐車場、中央公民館の駐車場が狭く、困っている。
施設	有無	階段が多く、エレベーターが小規模すぎるように感じる。 エスカレータを設置した方がいいのでは。 大ホール行きのエレベーターが欲しい。
	段差	段差が多い。
	防災	防災を徹底し、素早い避難を可能にすること。
	バリアフリー	高齢の人や障がいのある人も利用しやすい会館であってほしい。 バリアフリーを徹底すること。
	サイトライン	最上階の席(大ホール)が、ものすごく見づらい。
アクセス	交通と建物の連続性	バスでの降乗等、自家用車での送迎の上でも大変不便です。
	公共交通の利便性	交通の便が悪く、駅からのアクセスが悪いため利用しづらい。 バスの便が良くて助かります。

表5. 改修履歴と改修効果の分析結果

項目	改修内容(改修費用の金額)	効果
トイレ	エントランス・大ホール1階のホワイエ・大ホール楽屋トイレの和式トイレを洋式化(¥19,980,000)	高齢者等が安全に使用できるようになり、利用者の利便性の向上に繋がった。
	大ホール1階・中ホール・5階多目的トイレ自動ドア機構部分等 改修に併せて音声案内・大型の開閉ボタン設置(¥1,706,400)	音声案内と大型の開閉ボタンの設置により、自動ドアの使用方法が分かりやすくなった。
	大ホール1階ホワイエ女子トイレ側の多目的トイレ側におむつ交換台を設置(¥275,400)	乳幼児を抱えるお客様が安心して施設利用できるようになり、サービスの向上繋がった。
手すり	正面玄関(エントランス)に手すりを増設(¥4,806,000)	高齢の利用者等が安全に移動できるようになり、利用者の利便性向上に繋がった。
	中ホール下手の客席・ホワイエから舞台への通路にある階段に手すりを設置(¥91,800)	高齢の利用者等が安全に移動できるようになった。
	開館南口の外部階段に手すりを設置(¥99,390)	高齢の利用者等が安全に移動できるようになった。
案内板	大ホール1階トイレ等の案内表示板改修(ピクトグラムの導入等)(¥347,760)	中ホール利用者の座席確認が分かりやすくなり移動がスムーズになった。 大ホール内での現在位置(階数)やトイレへの移動が容易にできるようになり、利用者の利便性向上に繋がった。
	エントランストイレ・展示室入り口等の案内表示板改修(ピクトグラムの導入等)(¥324,000)	展示室への誘導がスムーズになり、また、トイレの視認性が向上した。
	2階エントランスの大・中ホール案内表示板への照明設置(¥15,984)	案内板が見やすくなった。
	大ホールホワイエの階段・通路等の案内表示板改修(ピクトグラムの導入等)(¥216,000)	大ホール内での出入口方向及びトイレの位置の確認が容易にできるようになった。
	中ホールトイレ・エントランス等の案内表示板改修(ピクトグラムの導入等)(¥297,000)	館内各所への誘導がスムーズになり、また、トイレ入り口の視認性が向上した。
	正面玄関前の車いす利用者向けのスロープ案内表示板設置(¥297,000)	車いす利用者の動線が分かりやすくなった。
段差	正面玄関前の案内表示板への正面設置(¥9,998)	夜間に案内板を照らすように改善したことによって、利用者が夜間にも案内板を確認できるようになった。
	大・中ホールにて客席前に仮設ケーブルを設置する際の段差解消としてケーブルプロテクターを導入(¥785,160)	仮設ケーブル敷設時の段差を緩やかなスロープとすることによって入退場のつまずき防止となり、利用者が安全に移動できるようになった。
駐車場	優先駐車場の増設・優先駐車マークの設置・段差の解消(¥2,268,000)	障がい者、介護が必要な高齢者、妊産婦、けが人などの駐車場利用機会が増え、利用者の利便性に繋がった。

く演目を楽しめる。しかし、手前の人が立ってしまうと、車いす利用者のサイトラインは確保されない(写真4)。大ホールの壁には凹凸があるため手すりが設置できない

(写真5)。観覧席にも手すりがなく、壁面に沿った通路の階段は蹴上げと踏面が一定ではなく(写真6)、ノンスリップと階段の色がほぼ同じ色で角があり(写真7)、暗い環境の中で利用者が集中した際には、危険性がある。

大ホールに近接するトイレは、客席の下の空間に位置している。そのため、トイレ内へは階段を下る必要が生じる(写真8)。トイレ内へ至る通路の壁には凹凸がなく、手すりが設置されている。大便器は和式で、ブース数を確保するために個室は狭く、扉は内開きで1回奥まで行かないと扉を閉められない状況である(写真9)。

手すりの未設置や階段の形状に伴う危険性や、有料エリア内のトイレの位置は、建物の老朽化が要因ではなく、音響効果や客席からの見え方を配慮して計画された劇場・ホール建築の特有の形態から生じたバリアである。

10. まとめ

当該施設において、ソフト面では、開催イベントの内容にも課題が伺える(図8)。当該施設を利用したことがない人における、首都圏(劇場)及び首都圏(ホール)の延べ利用率は、当該施設を1~9回利用した人よりも高くなっている(表3)。駐車場に対する意見を挙げた人の居住圏域を見ると、当該施設から30分未満の人が8割近くを占めた。駐車場に次いで多くの意見が挙げられたトイレにおいて実態調査を行ったところ、個室ブースの手狭さが改善されなかったことから、トイレの洋式化後も利便性や広さに関する意見が挙げられたことが明らかになった(表4)。施設に関して、階段の多さなどバリアフリー化を求める意見が見られるが(表4)、エレベーターの増設やエスカレータの設置は行われていない。車いす利用者向けの特別ルートを設けるなど、運用面により対応している状況が明らかとなったが、ノーマライゼーションの理念から見ると、依然として課題が残る。

【註】

- 1) 東北地方に現存するコンサートホールのうち、座席数2,000席を有するホールを所有している施設は、仙台サンプラザホールと郡山市民文化センター(大ホール)のみである。仙台サンプラザホールは、株式会社仙台サンプラザが運営を行っており、公立の文化施設としては郡山市民文化センター(大ホール)のみという状況である。
- 2) (1) 年齢階層：市内在住の男女を住民基本台帳に基づく年齢階層別の構成比で7階層(①18,19歳②20代③30代④50代⑤50代⑥60代⑦70代以上)に代に分ける。(2) 地区別構成比：(1)で分けた者をさらに、それぞれの階層の人数を総人口の地区別構成比に合わせて図2に示す15地域に割り振る。(3) その他①外国人住民は除く②同一世帯から複数抽出はしない。③高齢者施設への入所者等が抽出された場合は調査対象から省くため、各地区多めに抽出する。④令和元年度台風19号の被災地域を除く。
- 3) 公共交通機関の利用を推奨して計画したため、郡山市民文化センターの利用者専用駐車場はない。自動車を利用する場合は周辺のコインパーキングか、少し離れた麓山公共駐車場の利用を推奨している。

表6. 改修履歴と改修効果の分析結果

【凡例】 要因(構：構造 設：設備 ス：スペース)

対象(○：車いす利用者 □：視覚障がい者 ◎：高齢者)

場所	UDの適応状況	課題	要因	対象
正面玄関	・階段の高さは高すぎず、低すぎず昇りやすい。 ・手すりが2段になっているので、大人から子供まで利用しやすい。	・階段にノンスリップがないので、滑ったり、転ぶ危険がある。 ・暗い状況で上から見ると、階段の段差が分かりにくい。	設 構	◎
大ホール 1階トイレ	・案内板の色、表記の仕方、ピクトグラムが大きすぎて見やすいので遠目から見ても分かる。	・個室、扉が狭い。 ・トイレの個室に入ったら、一回奥まで行かないと扉を閉められない。	構 ス	○ □ ◎
多目的トイレ	・開け閉めのボタンが分かりやすく、押しやすい。 ・音声案内があるので、目が不自由な方でも利用しやすい。	・トイレ内の鏡が斜めになっているので、車いすの方には使いにくい。 ・他の利用者の方には使いにくい。	設 構	□ ◎
大ホール	・車いす利用者のための観覧席が設けられていて、車いすを降りることなく鑑賞できる。	・ノンスリップと階段の色がほぼ一緒なので、上から見たら平面に見えてしまう。 ・階段に角があり、踏く原因になる。	設	○ □
中ホール	・ステージに行くまでの階段に手すりが設置されたので、足が不自由な人や高齢者も利用しやすい。	・車いす専用の観覧席が狭いので、付き添いの人の椅子を置いた場合、通路が狭くなる。 ・階段の高さが一段一段違うので、階段下降のリズムを崩して転倒のリスクが考えられる。	ス 構	◎ ○
中ホール 付近トイレ	・便器の数が多く、ホールからトイレまでの距離が近い。	・和式が複数あり、足が不自由な人や高齢者には負担がある。トイレの個室は、狭く、一回奥まで行かないと扉を閉められない。	構	◎

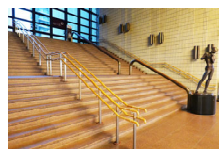


写真1. 正面玄関

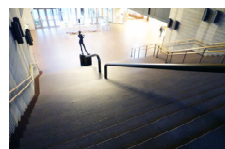


写真2. 主要階段

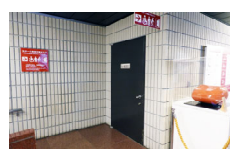


写真3. 車いす専用通路



写真4. 車いす観覧席

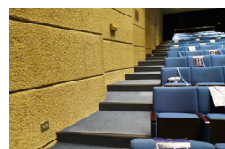


写真5. ホール壁面

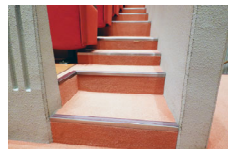


写真6. ホール内階段

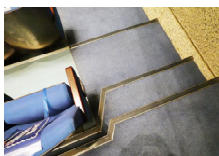


写真7. 階段の角

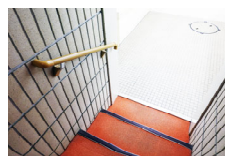


写真8. トイレへの階段

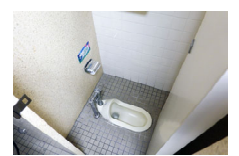


写真9. トイレ内ブース

【参考文献】

- 1) 斎藤義、建築思潮研究所：建築設計資料 18 劇場・ホール 建築資料研究社 1987年9月
- 2) 里館慶見、勝又英明：劇場・ホールの寿命に関するアンケートによる実態調査：劇場・ホールの寿命に関する研究 日本建築学会計画系論文集 2001年1月
- 3) 白井大輔、清水裕之、大月淳：名古屋市文化小劇場を通してみた地域小規模公立文化施設の管理運営の現状と課題 日本建築学会計画系論文集 2004年9月
- 4) 小野田泰明、松本啓俊、菅野實：市町村域における文化ホールの整備に関する研究：文化ホールの地域的整備に関する研究 その1 日本建築学会計画系論文集 1993年1月
- 5) 坂口大洋、小野田泰明、菅野實：大都市近郊に立地する公共ホールの利用圏域とその形成要因：N市文化会館の事例を通して 日本建築学会計画系論文集 2001年3月